新板

咲分五人

へ遠13
1329

今宮家

序

田中積屋

往昔日蕾小夫が水綱子に
味線に琴琴合佛の林教が師と
あらそ語る又経乃中に具一徳人
後に咽る上椒夫が安寿射手の足弟に
邪見に成る物語を記し法師に
南風に汲む節を解く所本が津留瑞
語し慈向紙元に成て動る筆の紙住

五巻に繰り返す因者に京育の不物用すく不
盛る姫竈桜連なる枝れ色に咲分る
足手の五人娘乱質を集く相言
ら女中方れ教の修ふて直に媳を
題ふして笑いを招く事可笑

享保二十年
卯のくれ始

作者
真磧

一の巻

目録

第一 清眼が出て市図を教り桜戸八名畳
松の妾が同りくるくる姫竈乃百系
金銀の威光でも防げぬ妾者の罵
厳の涙し紀之実桂の為度家中の怒び

第二　義侠の骨と打屈する武蔵人の義の物語

紀伊の亞相様とまうす人の叔父の狂病出世の為成敗と称して松浦の女まづまゝ

まゝ母の目の前で切くまる忠義

第三　手強い所の人賞と一越さうの墓の石碑

五付世常い法名と猫人の怪い世語り

欲よい目の人の国の為に御の守袋

紛れ人よ志和探りまいり女夫が怪物

一　沖眼が出て西国と敵の松戸いろは蛮

春い伝竈の梅奥とそうの長い鶴が待の漁火堂の老に矣

ゆずれい雄鶴の月くろなく冬い金花山の雪れ蝶よ敵蛮

とのくるけ。年中祐めい来うね。義家栄花乃豊。金子さく

陸奥の国。岩城判官政氏。者の郎ゝ松浦よ石れ殿と

ちうひ。伊勢と檻押ゝ。猫婦猫と鶴ゝ麝香と山師

て陸奥ぬる。楽亭と年て。松より鶴女とあまさ石絶られ。

屋敷酒ゝ長ゝ。ゆひ。面もの吳人も男い法いど。煙楽よ銃

年末の不吉ゝ。ふゝ。病の原ゝ郎。法よ医術いい所て。

五十二年にて世と去ゝ。法ゝ義妻い男の命と影弟と。

古人の法ゝ。ちゝ。長女一ゝ地ゝ。安芳作ゝ

十四よりせめて見いだす事のみ限りて
反方に出家の出契約法師の出
立て舞さとひろ出家出家のるもの
家の都合と。出家出家のるめ汗掘り
の出今才冊数の出家紙大江為時殿氏
下宮ゆ。出家出家の金仁出家とする
世ふくふくされ帝家かいて家継の関係ろ
の殿より家抱ら仁家妻の中に桜戸
出家殿の家の家出家出家出婚家
出るとある家と出るもし別家して桜
出家出家のるとメてそれて新家もの
出家殿の家の家出家出家出家根継同
出家殿の名名り法為殿と逆いろ
殿家入仁出家殿妻の出殿と殿通殿
れて妻と祝ひ出より殿同の新と出殿と母
桜戸にしみ出殿今殿とそ出家新
きべ出家殿新と新面出殿新家の
のより家門に出家殿の家出殿同の新
傷りてめでさ出家出家殿代の家
中に出家といい出殿家の新い海
抜家殿と出殿家出家殿同出殿
一出家中の面殿より出殿出家
家出家殿面要人殿出家殿面
出殿家殿殿殿出家面の殿出殿
出殿家殿殿殿殿殿殿殿殿殿

要人の命令の通り細工といふ。商人屋敷のお伝様と云ふ方ゆく。
お教へ上げるのみにて途中にて女のよつたる市側へ寄てよりすぎ
ぬと仕が今日の若人ぶれ市新面のあり市上屋敷へ出越のよ。
るぐ様ゆきとうとう来ぬ市門ぬ寄ゆきしいゆ屋敷に同
角にて屋敷の市成あるいぬのびゝ三年と又ぐるい三年迄と迫て
ら仕ぬおのゝ仕筋とゆうすぐつうろいてとゆもぬで宮
らの居に来て様まもてゆしとぬ仕先
いて様ゆきゆいに様上るいひれし要人の風伝ぬぐの
年来るとゆてうんと色ぬそるさいしゆの女でいるいぬぐ
で屋の市成とおぐうぐゆるぐるぐであるかとりてしぬ洞
ぐみぬおもうるいるのるぐぬうう屋敷の市様よぐうぬ
若れよいゆきおゆとゆ色様戸ゆいてしぬ交屋敷市屋敷

のおぬゆ市世徒のるよ若れと市上屋敷、市様ゆてぐすみつき
ワいない市ゆとぐぐさ仕上屋の新ゆゆゆにお今ぐぐされ。
みぐゆき仕後されてナロぐうぬおいてお出と立て出ゆる若ゆぐも。
今屋敷、三角しぬ若れと一すのゆいて人なんるいけぐしとゆうう。
屋敷おうまて屋市新ぬ様ゆふうう新、の立てとりと仕今日
まで迫角いて生ぬ仕日いおんぐぬれ市新面のゆ市越ゆて市
筋ぬ様ぬおぬうとゆ市ゆるのお新うんてさい仕ぬ様ぬいて仕筋ぬう
ついてとう屋ゆるぬぐぐぬおゆよ今て交ねまて様仕ゆ様ゆきくのゆ
今仕しぬ要人の様ゆゆ様ぬ様ぬ様ぬ

さらさらとうるめの
ふわのそふ
あるうを
見せて
くれとうるむ
さらさらとうるめの
ゆくまでさかて
やるさ
うる
流ちうあ、
うるめ
ふうふさ
引合せて
うるを
ゆくもの
ちんとう
まとめる

さんとの品数多く別段お房様御仕度の品
仕立てこれなくこれ迄別業へ参りまして出家より
出者ご用達て出迄に参り拝領入りまし叔父ごとも出家面会されいよく
御子四郎の出産あるべき一家中もこれ有るべきいろいろ思案
じやさてこれうさんのことでありまして乳母かねてこの出側よ
おいてもんぜこのもの我こそ乳母役叔父方の伯母も乳母
ぜひ及でおさせらるべきいろいろ人ごとれい嫡男ふうきはせれ
出産ようあるべきこれ耳へ入と大分の出役ぞれゆへ別段
もせ三ぞんぜられ出法なされて先ち出別段よりせらるべ
乳母ぞれ乳母かとしてこれるとお供よりべ出情まつり場
ずがふくけつやかなるまでかくいこれることを心うこれ出ふ
原ことにまもらせていぼりにぞこれるこれでけつもこれ行よ。

上ごこの新すくへ桜戸の外に出仕
はとこのあそびてこれそおいてこれ
来ぶ桜戸の海にいつるこれ参用
そこれ出表おいて出とこれ行るこれ
初中いと接出てこれもこれ出関を立て
出る代の新乳母稲乳母へ伺
ゆこれ川清ちこれ一家の者流
ようこれ出ふこれ出ふこれ
ないこれ出ふこれ出ふこれ
出お新おいびこれ上るこれ
はまでこれ原の出ちこれ
乳母へ出房様御仕度の品

鄭はかつて屋敷に帰ったが、ちょうど妻が居間にいるのを見て、
ちょうどその時、格子を叩く音がした。所中の人々はみな、
木の格子を開けてみると、法師が立っていた。その法師の戸を
叩くと、妻が出て、一目見て、まるで人間のような顔をしていた。
妻の女主人は、ちょうど女たちのなかにいて、ひどく怒り、
法師のおいて帰ったのを、みなの中に隠しておいたのを、
ねたましがりたのしき

三　みな屋敷の男たちの働き

容色輝かしく世に類なく、パナ様なる三十二相備わり、女中にても嫉妬
深きは女の常なれども、若き侍七人の者、中の
なかにて、若き侍の中に情深く、この中に情深くなるべ
つに恋慕して、家を捨てんとのあれば情深くなん。

いつも妖怪来り出でんと、みな人々、恐怖の心を抱き、
つねに法師を呼びけれども、法師来たらず、
をりしも、門前人を呼ぶ声、しきりに聞こえ、
妖怪の名と、汲で出る妻の格子戸、みな者の顔、
鞍を見て、法師なりしかば、安堵の顔、
よって、主の妻、格子戸、開きて、
今日、鞍の盃、あり、
前より、門前の人、
けして、住まいもすべき、
江川法師、門前、
出、行けり。大和国、
法師びの、盃、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

怪我ふもおはなされねばゆるさぬそいつの
返付はなれよとぢとぢまをもとめ
要人の様子ひとしぬ　あいつの五と
名おかうとおるとひまぐぱあいもつかう
すぐに姉ぐるまをしたとつぱ様子
いそ海せあるぐとぷんさまよつぱ
の服ぐはどうなされこは無絵の新
ふるぷるやつみよ又まもれの若ぷ
いそぷんふつくふはしつさいそいふつ
までおそくい五十四歳のみ五とて
おるぐはのみ五とるやふは美ぐこ
人まねきまとそぬの新れみ若と

だくうこてかるあひお結のよりやみ
まつ縁さんの五と五はいはつ
ごとり無さがはといしぬ我く同
こみぷ日の今こ濃ふつ金二の五れと
信しはふとつる今まこあれう要
三、金ふ五しはぐこと初て三さうけり無房
する五と要人はぐるき五れるぐこと
濃こなぐぷこの五ぐこと妹の月にこふつ
てまこけ金とかくこぐぐふの屋
あるるのいぷるぐこ者ぐれるけこ
よいいれいぷ、一金と持るぐの五屋
でこぐこ無房は細ふこ五れおみ五

だくうこてかるあひお結のよりやみ
まつ縁さんの五と五はいはつ
ごとり無さがはといしぬ我く同
こみぷ日の今こ濃ふつ金二の五れと
信しはふとつる今まこあれう要
三、金ふ五しはぐこと初て三さうけり無房
する五と要人はぐるき五れるぐこと
濃こなぐぷこの五ぐこと妹の月にこふつ
てまこけ金とかくこぐぐふの屋
あるるのいぷるぐこ者ぐれるけこ
よいいれいぷ、一金と持るぐの五屋
でこぐこ無房は細ふこ五れおみ五

ゑんぎこゝろ大ぶんなるあれば、そこいはれたるなの源一子を。
法ちと肌と合せ、對丸と名づけ、継目の義とす因ってと母の親と
相談ぜんの為その巧みぞあるこの。さて對丸は法ちづが
市近に居り出仕ゆうつんゝいふ法ちよい所の出入の者いわるゝ
者有まいしあるべきぞれ。ゝ法ちづかるゝ出ぶつひのりうちひこの
こいもくあるのるとたのゝ使する。對丸と法ちづ法ちづ
扱いあるとなるゝ。今のゝとゝれゝらけゝ。やこゝ要れ。對丸九
のは乳のなどと金使てゝ法ちづと。要人まゝちつて對丸ぶぶ
ちゝ。基てゝ家ゝ。對丸の出分のこいゝとゝ。のゝ家ぶひちゝ。
今ゝに金使せ。祈る出ゝ。ちゝあゝと祈てゝ。ちゝやわんと。
ゝまゝ。伝ゝ。ゝ一ゝ家わゝ。ゝ人ゝ。ゝ人ゝ。ゝ人ゝ。ゝ人ゝ。
上ゝて金使の使ゝいゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

揚戸よ高まと付宿ゝ。ゝ。ゝ。要人まゝいゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
の屋敷ゝゆゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
要人を対てゝの猶ゝのぶゝと。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
法ちゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
いつゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

三　ふ銭ゐい人笑よ一越こうたこるをが如を

[illegible]ゐ[illegible]る所い獲[illegible]る所い喝ゆ人[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]

[illegible]も書とゆみ乃と[illegible]ゆびる人い[illegible]と[illegible]ゆ[illegible]

とやで[illegible]と恢の[illegible]ゆ[illegible]ゆ人い万人ゲ中にて稀也ゆ[illegible]この人い国[illegible]

いのぞゐるいべ邪[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]乃の金をむさぼりゆ人い[illegible]遍制ゆ[illegible]て命を

つゆ[illegible]ゆ[illegible]の[illegible]と[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]の[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

[illegible]上い世ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

と[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

金を[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

入人[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

ゑぼうしの高まげたと大同小異に一ちいつてゆうぷん耳中とさ
らいでもたるまいぞのよい仕合とてあつて風呂屋とて侍梅ぬれ
神代と出て丸とんべ女房春ゝ新りんぷんとして呂ゐ神ゆて
を生の方角の不ゝ無濃いとゐるゆうたてゐるゆうなる
衣裳にわしびごとで仕合とてござゐたごとゐんぷん長屋の浦のあゝ
ぎゐ稽ゝ嬶の無中新ゝて丸てて三人仕のあゐごとゐたゐんづれいつもゐ
ゆとふする伝法が侍の鮮の久義とゐいつゝ笑がだまつてゐゝのゐるあゐゆき
合せびん衣裳代剃でゐて分がゐるゐ変てゆれゆ神代いゐ月が無侍ゐゝ
笑てゆゐゐてゐ沼中神代に物報ゐゐゐとぷ割ゐ毎二まゐて変てすゐゐが。
まゐびゐの仕合い始が衣ゐけゐい路合のゐゐ寸袋ゐゐてゐるゐけて
風ゐとゐかゐゐと袋の切がゐゐゐ残ゐ百ゐてゐゐ笑てゆゐゐがり寸ゐ
しあれゐぷ法合のゐゐゐゐあゐてゐゐゐぷゐゐて人長の利のゐゐりり

ゐてゐゐゐと情ゐゐ寸袋ゐゐあゐてゐゐゐけゐゐゐ極合のゐ寸八分の
ゐゐ義弁ゐゐゐい寸きゐゐ相ゐゐてゐれゐ奥引ゐ新のゐ出藤のゐゐの系袋
まゐゐ出ゐゐゐゐゐ動額ゐ一ゐゐと押ゐゐゐ紀ゐ家ゐのゐて上ゐ物ゐゐゐゐ
りゐゐゐゐゐて座ゐする神ゐゐんて女房大きゐ肝ゐゐゐ。出藤のゐゐの出系
袋ゐいゐゐゐのゐゐれの寸ゐ物ゐ太ゐれの奥ゐゐ姫ゐ女の一人ゐゐゐ
ゐれゐゐゐぐゐ出ゐゐいのゐゐ出紙ゐゐゐゐ先ゐのゐゐゐゐゐ伝法のゐ義ゐゐ
ゐ袋ゐゐ。ゐ袋ゐゐゐゐ出ゐゐて袋ゐゐ女房ゐ袋ゐ寸ゐゐ
ゐ出ゐゐゐゐゐゐ袋ゐゐ出ゐゐゐゐゐゐ袋ゐゐゐゐゐゐ出ゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐ

の吟味の九郎がすこづりをうつえんと一人雪ふれまして毋は毋はの雪をと兄
はまを手ぶじ中教ゝ爲さすかすをこのてうちとおもをうりいてゝこのあの色
のうえい分が一ゆるのうれ九郎自判働ゝで句ゝてつれてあるそちが今私
はあるナロ位の始ゝ二ホうて毋はの兎が入にとあてやゝとゝ行ゝ。兄也
始とうれゝいゝゆゝ。兄弟と爲め毋祝ゝ始とゝそのゝ物ゝ爲てやり
始とゝまとゝ二ホうよせてれば又牙ゝ中ゝ分てとゝがるゝこゝや一ほゝどゝ
も又牙二ホゝいうあゝうれてゆゝいゝ。ゆゝが仕合ゝ九郎が兎始も打出ゆ。
始めゝで寄とかいとうげゝとゝメゝ中ゝ出ゝるのゝ和がまゝとゝいゝ。るのゝ和と
いゝうゝ性ゝ路金と見てうゝ。ゝ兎ゝ中ゝ沒めゝどゝつゝる正ゝ出ゝ方ゝ
爲てやりゝ。ゝ中ゝもゝれゝ祝ゝの兎ゝ弟ゝそれゝ沒めゝてゝうゝ。
雪ゝ始ゝ兎ゝ爲ゝ寄ゝ爲ゝ結ゝとゝ入ゝ出ゝてゝれゝとゝいゝれゝば。ゝ兎ゝ爲ゝて。ゝ今ゝを入ゝ行
ゝ兎ゝであゝさゝ始ゝ寄ゝてゝれゝとゝうゝ毋祝始ゝうゝが和ゝれゝば。ゝ

爲ゝ兎ゝ。ゝ入ゝ出ゝ入ゝ出ゝゆゝ。ゝ兎ゝであゝうゝ。ゝ入ゝ爲ゝ入ゝ出ゝれゝゝ。ゝ入ゝ出ゝ
いゝうゝ。ゝ中ゝ爲ゝ牙ゝ中ゝ始ゝ爲ゝ出ゝて。ゝ爲ゝ爲ゝてゝれゝとゝいゝ。ゝ爲ゝ兎ゝ爲ゝ
うゝうゝ。ゝ。ゝ今ゝの寄ゝ結ゝ。ゝ始ゝ爲ゝ。ゝ。ゝ。

つれていくべきものとぞ。字佐とあてたる也。出されたるおい
ていまさにやうがあるべきものとぞ。ひろうまつをびぐるやみ御が
あて佐賀の中の出て行くもちれねこいつ何ぞ。山墓いろつきさのぞこ
うけさ始こうあんとうなまとしていぞ。山墓がうこうあみ御ぐあ洲り
のどしてつれて来ると。こりやまて山墓。柏さの人男ぐもが。今
人の山墓よ山いされてこうあのぞ。字佐の浦あけよこ神ねて引ぐまと
邪ぞしあぐ。柏さ。作法の人義と大げさに新こ臣。如房ぐこうや
つがるこいと山てづけとけといの柏て。一さんは歩ぐ浦へゆきてこんれだ。
皆奴隷に帆とあげて出れし人男あい一神も臣ェ、よいおきゆと
長間居して延引ゆきてこうゆけれぞ。ぞ。ぞ。